

3. ITI 国際直接投資マトリックス（2007年版）

世界主要国の対内外直接投資額をマトリックス形式に製表しとりまとめたものである。本報告書は、OECD加盟国の直接投資統計をもとに長期時系列で作成可能な最新時点までの表を、1998年以来作成している。

世界の直接投資は1990年代後半の先進工業国におけるクロスボーダーM&Aなどで投資額が膨らみ、2000年に最高となった。その後減少に転じたものの、対内直接投資は2003年、対外直接投資は2002年を底に、以降増加に転じ2006年は2000年に次ぐ規模となっている。

特に、従来は投資の受け入れ国と考えられてきた開発途上国からの対外直接投資の増加傾向が顕著である。途上国企業が力をつけ多国籍化の傾向を強めている、資源価格の高騰などを背景に投資資金が潤沢で外国直接投資に積極的である、クロスボーダーM&Aを通じて先進国企業を買収し国際競争力を高める、などが背景にある。こうした動きは、従来の様相と異なる大きな変化といえる。

このため、どの国・地域からどの国・地域へ投資が行われているのか世界の直接投資の動向が俯瞰できる投資マトリックスを作成し分析するのが、本書の狙いである。

国際直接投資マトリックスは、次の4表に分かれている。

- 1) 対内直接投資額をもとにしたフロー表
- 2) 対外直接投資額をもとにしたフロー表
- 3) 対内直接投資残高をもとにしたストック表
- 4) 対外直接投資残高をもとにしたストック表

あわせて、2007年版の報告書では、直接投資マトリックスを活用される利用者に役立つと思われる関連統計をとりまとめて掲載している。